

2022（令和4）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1471901494	事業の開始年月日	平成14年8月1日
		指定年月日	平成14年8月1日
法人名	有限会社 トウインクル・ライフ		
事業所名	グループホーム・美咲の家		
所在地	( 239-0843 ) 神奈川県横須賀市津久井1-17-7		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	9名 ユニット数 1 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月5日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・昼での暮らしを主体として、その生活の中で自然に残存機能の活用とADLの向上を図っています。利用者さんがご自分で「立ち（起き）上がる」「座る」「動く」「手先を使う」といった生活の中で無意識に身体を動かすことがリハビリとなり、残存能力を維持しながらその向上も兼ねていると考えています。

・近隣の方々から頂いた野菜を干したり漬けたり等、自分たちで行う事でまた食べる楽しみが増えていきます。

・ターミナルケア対応。なじみの仲間に看取られながら最期まで一緒に過ごす。

・日常生活の中で、利用者さん主体を心掛けています。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年11月10日	評価機関 評価決定日	令和4年12月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は京急「津久井浜」駅下車徒歩10分の海沿いで少し高い場所にある1ユニットの和風の木造2階建ての施設です。南向きのリビングには縁側付きの全面掃き出しの窓があり日光浴が出来ます。前面は広い駐車場、花壇、野菜畑があり、海も近く、周囲には畑、社寺もあり、なだらかで静かな住宅地です。

<優れている点>

企業理念・経営理念・事業所の行動指針をもって利用者本人の「その人の暮らしの中の日常を最後の時までしっかりサポート」することを目指して支援に努めています。日本本来の「畳」中心の座る生活をあえてしながら自らが「生活リハビリ」を進めることで残存機能の存続や健康・食欲増進、便秘の予防に繋がっています。自律意志などQOL（生活の質）の向上の希望が本人の意思で進められ、職員が見守り、支援することで「ここに来てよかったとの思い」になるよう努めています。医療連携は三浦の「赤ひげ先生」と言われるほどの信頼おける医師の訪問診療により終末期の看取りまでのサポートを受けています。

<工夫点>

ケアプランに沿って日常の記録を「月の経過及び状況把握」に纏め、ミーティングで検討、改善課題を抽出し共有しています。記録には「生の声」を記載することに心掛け、言動を「思いのひもとき」方式を使い話し合い、改善に活かします。また、四季折々の自然素材を使って「みそ・梅干・切り干し大根」づくり、庭での花々や畑作りを楽しんでいます。ZOOM（Web会議システム）を活用した運営推進会議をすすめています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム・美咲の家
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	出勤時、退勤時に理念ファイルをチェックしてシートに記入/理念研修を行っている/月2回の会議で利用者主体・優先の考え方を共有し、取り組んでいる/理念を共有し、実践。利用者主体の介護に努めている	企業理念を事業所の行動指針「利用者主体・優先・目配り・気配り・心配り、見守り・看取り」に落とし位置付けています。月2回のミーティングで業務改善会議や各研修を話し合い、一人ひとりの利用者に対しての課題を抽出してより良い支援につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で実施されていなかった散歩をご家族に相談・同意を頂き、人込みを避けて6/13から再開/以前は保育園の七夕敬老会に参加していた/外歩きの際は積極的に挨拶を行い、地域の一員として認められる努力をしている	コロナ禍の中で地域との繋がりは薄くなっていますが運営推進会議の要望を受けて限定しながらも近場の外出を始めています。今後の地域の銭太鼓、神輿などの行事やボランティアの受け入れ再開へ向けて準備を進めています。	自治会メンバーや地域の人との交流が少なくなってきました。近年、高齢化が進む中、地域一員として施設の役割を地域に情報発信をしていく努力がさらに期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ前は地域の座談会に参加していた(年に1~2回)/福祉サークルの方との交流を毎年行っていた/徘徊の付き添い時、そと地域の人々に簡単に事情を説明して協力してもらうことがある。気持ちよく協力して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍の為、書面会議を行ったりzoomで参加して頂き、色々な意見を頂いている(日々の様子、状況報告)/散歩の再開の相談もさせて頂き、家族の同意を頂くことになった	早くからZOOMが出来る元利用者の家族の協力を得て実施をしています。事前に式次第を送り、横須賀市や民生委員からの情報を得て会議を実施しています。日常の行事、身体拘束・虐待防止・次第を受けた意見に対する返答など報告書にまとめて送っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	適宜利用者さんの状況を伝え、連携を行っている	運営推進会議には横須賀市職員の参加はありませんが、会議の前に送る施設からの次第を受けて、横須賀市からの要望、意見、関連情報などを得ながら連携をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的に内部研修を行い、身体拘束しないケアに取り組んでいる/緊急やむを得ない場合にどのような対応を行うか研修で検討している/日中、玄関の施錠は行っていない	運営推進会議と連動した会議で話し合っています。感染症対応で不適切なケアに繋がりがちな事例をグループワークで話し合い納得するケアの理解と実践を探っています。居室は錠はなく、玄関は職員の目が届きにくい会議の時と夜間は施錠をしていますが日中は開錠し、自由な外出とその時の見守りをしています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止研修を実施している/自己チェックシートを使用し、言葉の虐待や小さな事でも気づける様に話し合い、対応を検討し防止に努めている	虐待防止研修や「自己チェックシート」を集計して自発的な気付きによる振り返りの話し合いをもっています。言葉での静止、夜間の混乱時などはゆっくり座って傾聴して気持ちを治めていくように努めています。職員の「アンガーマネジメント」研修にも取り組んでいます。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年に1回研修を行っている/利用者さんの個性・変化に応じて毎月会議で検討し支援を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な時間を取り、説明と確認をしながら理解・納得を図っている/特に看取りについての対応・方針・医療連携体制等、詳しく説明し同意を得る様にしている。ケアの考え方・取り組みを適宜説明し、納得を得られるように努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	訪問時、推進会等で出された意見はミーティングや申し送りで話し合いを行っている/家族アンケートの読み上げ・対応方法の確認を行い、要望に応じられる様に努めている	家族会議は行ってはいませんがZOOMやLINE(SNSアプリ)を活用しています。運営推進会議に家族や元家族の参加があり「外へ出してほしい」等の要望から実現につなげています。家族アンケートやパスワード付きの写真による個別の家庭だよりがあり、現在新聞作りを検討中です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月2回の会議（ミーティング、業務改善）と個人面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けている（随時相談に応じ話し合える関係性を構築している）/職員の提案を取り入れたイベント等を行っている	日誌や「送りシート」を元に担当者が「月の経過と状況確認」をまとめ、会議で話し合っています。居室担当者は責任もって記録、提案し利用者の改善に繋がり職員の喜びや意欲になっています。個人面談も実施してやりがいつくりや相談にも応じる姿勢に努めています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談時、自己評価表を基に今後の目標を話し合っている/得意分野で自ら担当を選んでもらい、やりがいや向上心を持って働ける様な環境作りに努めている	自己評価表や個人の希望をもとに話し合いを行い、役割分担を決めて任せています。夜間専属の職員を配置せず勤務体制を話し合っで決めることで夜勤時の事務記録作業が日常のまとめとして共有できる役割を果たしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍の為、外部研修はリモートで行った/研修案内の活用、参加希望時はシフト調整しやすい環境を作っている/働きながら改善し合える環境であると思う。日々違うので実践ありきだと思う	必要な研修事項を年間研修計画に落として全員で実施しています。研修では時には講師役、グループワークショップを行い、チェックリストを使いながら当事者として振り返る機会としています。資格取得も希望者には社外研修会への参加などを全面的にサポートしています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所との交換研修を行いながら交流の機会を作っていたがコロナの為に中止している。以前は積極的に参加していた		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	情報提供書を共有し、本人の不安や要望があった時は耳を傾ける時間を作り、安心して頂ける関係づくりに努めて信頼関係を築いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の求めている声の理解に努め事前に話し合いをしている/これまでの苦労や経緯についてゆっくり話を聞き、不安を軽減できるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の想い、状況を確認し改善に向けた支援に努めている/オムツ支給や理容サービス・布団丸洗いの外部サービスが受けられるように支援している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その人らしさを重視しケアを行っている/食事作り・掃除・洗濯（干し、たたみ）・花や野菜へ水やり・ゴミ出し等を一緒に行う/利用者さんは人生の先輩であるという考え方を職員と共有、利用者さんから学び和やかに生活出来る様な支援に努める		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	現在コロナ感染防止の為、窓越し面会を行っている。電話やTV電話等も使用されている/本人の日頃の状況報告。動けない方は動画やその場で写真を撮り見て頂いている。短時間だが家族との時間を大切にしている/ご本人、ご家族の要望を聞ける様に努めている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	現在コロナで面会制限はしているが、県外（故郷の兄弟）の面会も短時間だが受け入れられている/電話、手紙、年賀状での連絡の取次等、繋がりを持続できるように支援している/会話時には思い出話を振る事で本人の大切にしてきた人や場を改めて思い出し、記憶に留めて頂く配慮をしている	コロナ禍で友人・知人等の面会はありませんが家族の了解のもと複数の利用者が携帯電話を利用しています。手紙、電話、年賀状での関係性の継続や思い出の場所や事などの傾聴に努め、関係継続が途切れないよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	生活リハビリ（食事作り・洗濯たたみ・掃除）、歌、生け花、ゲーム、共通の話題時には席を替えたり、動けない利用者さんの所へ歩ける利用者さんが訪問したりと利用者さん同士の関係が上手くいくよう職員が調整役となって支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	運営推進会議に参加して頂いたり、自由な来訪を受け入れている/LINE等で繋がっており、継続的なお付き合いが出来ている		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思い・希望を受け止め、常にその人らしさを考え、本人主体の希望や意向を把握できるような声掛けに日々努めている/ミーティングやひもとき研修等で検討している	利用者に「あなたがいてよかったよね、安心よ」と言われるような信頼関係作りに努めています。支援は手を出すことなく見守り中心に声掛け、支えていく中から本人の日常の思いの言葉を拾い出しています。真の思いや意向を探る「ひもとき」研修で更に把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	好みや各自のやり方を尊重し、自室で音楽を聴いたり、タンス整理や昼寝等、自由に行っている/ご本人・家族から話を聞いて把握に努めている。バックグラウンドの情報提供書で確認・共有しその人への理解に繋がっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	業務日誌、体調管理表、送りシート、日々の申し送りでその日の状況・状態に合わせ支援を変更している/些細な事でもグループラインで共有し、現状把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議時にアセスメントを行い、相談しながらモニタリングを元にケアプランの見直しを行っている/家族来所時に話し合いが出来ている/会議で意見を出し合ったり、ご家族等の視点からの意見も考慮し、作成している	6ヶ月ごとにプランを作成してその実践と見直しは一連の流れで取り組んでいます。毎日の「業務日誌」、夜勤者がまとめた「送りノート」をもとに居室担当者が作成した「月経過及び状況確認」があり、毎月のミーティングで検討し改善点を明確にして日々のケアに努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録、送りシートに小さな変化、いつもと違う等気になる事は日々記入し、共有している/個々の担当者を決め、ミーティング時見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その日ご本人の状態によって日々のケアを変え支援している/押し付けず柔軟な支援に取り組んでいる/家族と連絡をとり情報共有している。家族の希望も取り入れ、利用者と家族の両方が幸せでいられる事を常に念頭に対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナの為、なかなか行えていないがごみ捨て等、利用者さんに合った支援をしている。終息後は以前行っていたお花見や地域のお祭り等、地域の方との触れ合いを行っていきたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の主治医による訪問診療。歯科往診は連絡を取り合いながら決定。整体・マッサージ等、他の受診もご家族と相談を行いながら実施している（ご家族同伴）。ご本人ご家族の希望する医療機関との関係が築かれている	希望を聞き、現在は全員が施設の訪問医の月2回の診察を受けています。日々の「体調管理表」を医師に伝え、結果は支援記録や業務日誌に残し職員へ「グループライン」を活用して薬の変更などを伝えていきます。医師、看護師、職員の協力体制も取れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護師に状況を伝え、相談・把握をして頂いている/健康管理や状況変化に応じて支援を行っており、小さな変化にも体調管理表に記入し活用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	昨年7月、右大腿骨頸部骨折で1ヶ月入院された利用者がいたが、病院関係者との情報交換を行い早期に退院することが出来た		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	管理者・ケアマネが中心に行い、職員にも方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる/安心して最期を迎えられる様に取り組んでいる/主治医との連携、ターミナル研修を行っている	看取りの研修を重ねて「人生最後まで尊厳ある生活」を支援しています。容態の変容時、医師に確認・指示を受け家族と一緒に寄り添っています。終末期、他の入居者の声や姿の見える場所で横になり最期を穏やかに過ごせるように配慮し、利用者も一緒に見守っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	ミーティングで議題に挙げ実施している。定期的に研修・訓練を行っている/コロナ前は救命講習会への参加と指導を受けている/不安がある時はすぐに管理者に連絡することで、サポートは万全になっている		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を行い、防災業者立ち合いで通報訓練やスプリンクラーの説明・消火器（訓練用）の実演をスタッフと利用者が一緒に行っている/R4年7月にzoom研修参加	年6回の訓練を計画し、非常食の試食会、消防署への通報訓練、火災・水害・土砂災害・夜間想定訓練をしています。実施後は職員で振り返り実施報告書を消防署へ提供しています。消防署との連携も有り今後は訓練時、立ち合いの協力も得られる関係です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に心掛け、本人の気持ちを大切に考え対応している/周囲から聞かれない内容は場所を変え、居室等で傾聴している/職員の言葉掛けに注意している。プライバシー研修、虐待研修等で再度確認している/注意しているが時々難しく感じる時がある	入居者の生活歴、環境、価値観を大切にしながら一人ひとりの意向や思いに寄り添って支援しています。自己決定、自己選択を尊重し、職員はじっと待つ姿勢で根気よく見守っています。リビングでの仕事の役割、庭先散歩など各自の意思で生活ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	希望を聞く様に心掛けている/常にんご本人がどうしたいか？を確認し自己決定が出来る様支援している/利用者さん1人1人に合わせた声掛けを行っている/あせらずゆったりとした対応でご自身の意見を表出できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の体調に合わせて支援している/毎朝お茶の時間に利用者さんと1日の予定を話し合い、希望を聞いている/コロナで実施出来ない事もあるが、今できること（庭散歩・野菜収穫・TV視聴等）の支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	入浴準備が出来る方はご自分で選んで頂く/2ヶ月に1回訪問美容を利用している、ご本人が自ら形や長さを伝えられる/お気に入りの服をご自分で選ばれ着られる、バックに鏡や櫛を入れられている方や自室でお化粧をされてからリビングに出てこられる方がいる。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者さんと一緒に食事作りを行う、食べたい物の希望を聞いたり、野菜切り盛り付けも一緒に行く/誕生日にはちらし寿司やケーキを作り、庭で野菜の収穫をし、その場で調理する。食事の後片付け・食器洗い・食器拭きを毎回利用者さんが進んで行っている	業者より週1回無農薬の野菜や食材を購入し、メニューはその日に希望を聞き職員の手作りの温かい物を提供しています。玄米、魚、納豆を多く取り入れ健康作りに配慮しています。皆で仕込みをした味噌、梅干し、切干など来客のお土産にすることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者さんによって魚をほぐしたり俵握りで食べやすくし、完食して頂く支援をしている/好き嫌い、その日の量をご本人に確認している/献立表に毎食使用した食材記入し、バランスが取れる様に工夫している/肉嫌いな方には魚に変更する等、好みに合わせて召し上がって頂けるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	基本的には朝夕の口腔ケアと夕食後洗剤を毎日使用しているが、いつでも自由に口腔ケアができる環境であり、自ら行っている方もいる/洗面所へ移動出来ない方は自席で行っている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	業務日誌を共有し最終時間をチェック、さりげない声掛けの支援を行っている/1人1人の排泄パターンを共有する/失敗を減らせるように座るまで見守り、その後は自立等その人に合わせている	排泄チェック表、業務日誌の記録から職員が個々の排泄時間を把握して時間を見計らって声掛けをしています。歩く筋力が付き、ほとんどが自立排泄で職員が見守り支援しています。手洗いや失禁で汚れがあれば頻繁に床を清掃し、清潔を保っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	献立の工夫、無農薬野菜・玄米・納豆・手作りみそ・ヨーグルト・バナナ等を取り入れたメニューを考えている/腹部マッサージやDrより薬を処方される方もいる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の入浴日を決めているが、体調によりそれ以外の日でも入って頂ける支援を行っている/入浴日には個々の希望に応じて順番を変えている/季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯等入浴を楽しめる工夫や季節を感じて頂ける支援をしている	入浴は週2回で希望に応じて寄り添っています。「恥ずかしく一人で入りたい。」という入居者には、外で見守っています。長いこと拒否の入居者にも強制はせず皆で検討し声掛けの工夫、足湯、朝風呂を試みて改善につなげ、楽しみな入浴になった事例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の状況に合わせて日中も疲れた時は自室及びリビングで休まれる/なるべく日中の活動（リハビリや散歩）を促し、生活リズムを整えるよう努め夜間は気持ち良く眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が個々に利用者さん別の内服状況・副作用等をノートにまとめており理解している/薬の変更があった時は日誌やグループLINEで共有しその後の変化をDrに報告している。服薬時は見守り、落薬・飲み忘れのないように飲み終わるまで確認する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	1人1人が得意分野で力を発揮して頂けるよう生活リハビリ（編み物・縫物・水撒き・読書・CD・歌・畑・塗り絵・囲碁・散歩等）を楽しみながら行って頂けるように気分転換の支援を行っている/同じような気分転換なので時々別のレクリエーションがあると良い		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの為に現在は行えていないが、短時間自宅へ帰られ100歳のお誕生日をご家族とお祝いされたり、夏物の服をご本人が選び持ち帰られる等、感染対策をお願いし、ご本人・家族の希望に沿って外出支援を行った/ご家族全員の同意を得て、人混みを避けての散歩を実施している	コロナが少し落ち着き散歩への要望を家族に伝え了解を得て、周辺の散歩を始めています。「庭先に一人で行きます」と1日に数回出る利用者や庭での洗濯干しやベランダで外を眺め外気浴する場合があります。「外に出たい気持ち」を大切に出来る限りの外出支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の所持はしていないが、欲しいものがある時にはその都度ご家族と電話で話し頂き購入している/コロナ禍以前は買い物ドライブで品選びや支払いをして頂くこともあった。最近は近くの無人野菜販売所で買い物と支払いを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持たれている方はご自分の好きな時に電話を掛けたりかかってくる/利用者さんの希望に応じて事業所の電話を使用している/手紙やはがきが届いた時はお礼の電話等の支援を行っている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に清潔を保つように努めており、玄関には季節を感じられる花を飾り、窓からは季節の花や野菜が見えるように工夫している/居間には写真を飾ったり、家庭的な雰囲気居心地よく過ごして頂ける様に工夫している/冷暖房や窓を開けたりしながら調整を行っている/リビングの飾りつけ（7月七夕飾り・12月クリスマスツリー等）	リビング南面は全面掃き出し窓で陽が入り温かい空間となっています。室内は利用者の生けた花や習字を飾り季節感にも配慮しています。庭先に育てている野菜や花を眺めることも出来ます。畳の部屋で座っての動作となりテーブルを囲んで会話やレクリエーションを楽しんだり、洗濯干し・たたみ・調理の手伝い・食器拭きの役割の仕事を果たす場ともなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングではテーブルを囲み、自席で読書をされたり窓側で日向ぼっこをしながら会話をされたり、自由に過ごせる居場所の工夫をしている/食事以外は自由に動かれ居室に移動して休まれたり、1F2Fをご自分のペースで移動されている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはご本人や家族と相談しながら今まで使われていた家具や写真・仏壇スタンド・マットレス・パッチワーク・布団・枕・イス等の思い出の品々を持ち込まれ安心して過ごせる様工夫している	6畳の和室で床の間に庭先の花を生けたり、仏壇、お気に入りのスタンドを置いたりしています。クーラー、照明、クローゼットは備品としてあります。自宅で使っていた馴染みの布団、枕、戸棚、を持ち込み、毎日クローゼットへ寝具を畳んでしまう入居者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	畳を使用していることにより、段差も少なく歩けない方もいざり移動や四つん這いで安全に移動できるように支援している（自由に動けている）/トイレ・浴室・階段に手すりを設置し、安全に使用できるように支援し、危険な物は通路におかないようにしている		

2022年度

事業所名 グループホーム美咲の家  
 作成日： 令和5 年 1月 20日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍であり、地域の人との交流が少なくなっている。</li> <li>・施設の役割を地域に情報発信できずにいる。</li> </ul>	地域に情報発信できるように努力する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会長（地域の方々）への推進会参加の促しの機会を作る。</li> <li>・座談会再開に向けて地域の方との情報共有と準備</li> </ul>	24ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月